

東日本大震災岩手県共同対策本部ニュース

事務局
いわて労連
No.6
2011.3.25

農民連、支援に奮闘

岩手県農民連では、被災地の食糧確保のため震災当初から奮闘してきました。今農民連には全国から支援物資が続々と届いています。秋田、青森の農民連の他、和歌山からは柑橘類が1800kgが届きました。また、青森から生卵1000パックが届く予定です。

県内各地では支援米の取り組みが行われ、東磐井農民連女性部では陸前高田・大船渡の避難所を回って炊き出しも実施、大歓迎されました。「暖かいものを十分に食べられないところが多い。大規模な避難所だと難しいが、100人規模の避難所は、私たちの支援が求められている」と、炊き出しを今後も続けていくとのこと。

被災地からは「食べれば当然無くなる・長期の構えが必要なので、やはり米はありがたい」という話しも各地で聞かれました。いわて生協の炊き出し隊にも食材を提供し、まだまだ支援が必要と、3月29日には岩手県農民連災害対策本部として、米・果物・生卵などを、宮古・釜石・大船渡・陸前高田へトラックで配送する予定です。

また、支援物資は被災地に届けられると共に、物流が滞り、病院給食の継続が危機に瀕していた盛岡近辺の医療機関にも届けられ、当面の給食の展望が持てると感謝されています。

◆青森県労連から支援車

3月24日、青森県労連から米、味噌、リンゴ、女性用下着、オムツ、ガソリン、灯油など救援物資を積んで3人が岩手に入りました。いわて労連に立ち寄り、農民連から届けられたリンゴとデコポンも積んで釜石に向かいました。物資は釜石の拠点となっている日本共産党東部地区委員会に届けられました。釜石の様子は、大きな避難所には



青森県労連からの支援物資到着



灯油の給油を待つ釜石市民 3月24日



サンルート釜石前

物資が届いているが、自宅にいる人たちには十分に届けきっていないということで、お米の小分け作業をしていました。また、燃料が不足しているということで、持って行った燃料は大変喜ばれま

した。

市内は釜石駅から向こうは道は通れますが、がれきでぐちゃぐちゃになっています。

◆自治体職員が献身的な取組 ーしかし疲労も蓄積

自治労連では救援物資搬送と被災職場への支援のため毎日走り回っています。



大槌町職委員長に話を聞く

今度の「大震災」で壊滅的被害を受けた自治体では、自治体労働者も多くの犠牲・被害を受けながらも、自治体労働者としての誇りと役割を發揮しようと、全力で日夜奮闘しています。その中で自治体職員の疲れも蓄積し、行政職員の派遣が急がれています。被災自治体の単組からも、「行政職員の協力が是非とも欲しい」（市役所）、「職員の健康、特にメンタル対策が本当に必要だ。住民の生活を支える上でも職員の健康は守らなければ」（町役場）と話されています。

県をはじめ市町村から様々な形での人的派遣や、被災住民に対する支援が実施されていますが、まだまだです。「行政派遣」は被災自治体の受け入れ態勢との調整もありますが、岩手自治労連では、各単組と連名での申し入れを強化し、自治体当局との話し合いの具体化を進めようとしています。

自治労連県本部から「いのちのガソリン」届く

3月24日、岩手自治労連がお願いしていた、「被災地救援活動」に活用するための「いのちの絆」ともいふべき燃料（ガソリン、軽油）と被災者への救援物資が自治労連秋田県本部より届きま

した。燃料は被災地救援活動に活用されます。



自治労連秋田県本部の支援

自治労連県北支部野田村支援

3月19日、20日、岩手自治労連県北支部では、県北内で大きな被害を受けた野田村へ「現地災害対策本部」と協議の上、災害復旧行動として入りました。

この行動は、岩手自治労連の県北支部内の洋野町職、九戸村職が支部として、最大の被害をうけた野田村を労働組合として支援しようと自主的に行われたもので、役場庁舎前の瓦礫撤去作業や、庁舎内の清掃・片付け、体育館、教育委員会施設関係の片付けなどの活動を行いました。また、軽米町なども人的派遣を行い、災害対策本部の割り当てにより行動しました。

洋野町職では、「今回の震災による被害は町民の生活や地域にとって重大な危機。私たち自治体職員としてできることをやって支援の手を差し伸べよう。」と組合員に呼びかけ、自分たちの車の燃料を調達、スコップ、一輪車なども用意し現地・野田へ入りました。



野田村役場がれき撤去作業

※共同対策本部では情報を集めています。活動予定・情報・写真等をお寄せ下さい。